

平成 30 年 5 月 吉日

特許戦略セミナー(大阪)のご案内

ー人工知能 (AI) を利用した医薬品開発等における特許戦略の考え方ー

近年、第四次産業革命が推進される中、人工知能 (AI) を利用した医薬品研究 (AI 創薬) や材料開発への期待が高まっています。特に、ビッグデータ創薬、ゲノム・オミックス、ドラッグ・リポジショニング、マテリアル・インフォマティクスなどは、今後の医薬品研究や材料開発のテーマとして注目されています。このような AI 創薬や材料開発についても、特許の取得と活用が必要不可欠であり、AI 技術の特徴に配慮して的確に特許を取得する特許戦略は、今後の研究活動や事業活動にとって重要となるはずです。

そこで、本セミナーでは、AI 技術を利用した医薬品開発を中心に、とり得る特許戦略について検討し、今後の課題と対応策について考察します。

本セミナーが、皆様方の実務に少しでもお役に立てば幸甚に存じます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

青山特許事務所

田村 啓・山尾 憲人

記

[日時] 平成 30 年 6 月 20 日 (水)

セミナー 午後 2 時 15 分～5 時 45 分 (受付開始：午後 1 時 45 分)

レセプション 午後 6 時 00 分～7 時 30 分 (軽食と飲料をご用意します)

[会場] (セミナー) 阪急グランドビル 26F, 貸会議室 8・10 号室 (梅田阪急ビルロフィスターの隣)

<http://www.hhbm.hankyu-hanshin.co.jp/meeting/grand/access.html>

(レセプション) 梅田阪急ビルロフィスター 41F, 青山特許事務所内

[講師] 弁理士 加藤 浩 氏 (日本大学大学院知的財産研究科教授)

1990 年～2009 年 特許庁 (特許審査官、審判官)

2009 年～ 青山特許事務所 顧問

[テーマ] 人工知能 (AI) を利用した医薬品開発等における特許戦略の考え方

セミナーへの参加 (含レセプション) は**無料**です。添付の申込書に必要事項をご記入の上、E-mail にて青山特許事務所、水原正弘 (seminar@aoyamapat.gr.jp) 宛にご送付下さい。**申込締切は平成 30 年 6 月 8 日 (金) です。**会場における席数の都合上、申込先着順で定員 **(60名)** になり次第締め切らせて頂きます。予めご了承下さい。

セミナーに関するお問い合わせは、青山特許事務所 (Tel : 06-6316-1261)、担当 : 水原正弘までお願い致します。

以上

特許戦略セミナー プログラム

1. 最近の話題
 - 1.1 AI 創薬の現状と課題
 - 1.2 AI 創薬の最近の研究動向
2. AI 創薬に関する特許出願の動向
 - 2.1 特許出願の最近の傾向（創薬技術と AI 関連発明を中心に）
 - 2.2 AI 創薬に関する特許出願の動向（ビッグデータ創薬、ゲノム・オミックス、ドラッグ・リポジショニング、マテリアル・インフォマティクスなど）
 - 2.3 AI 創薬に関する特許出願の類型化（クレームのパターン化）
 - 2.4 特許マップによる分析（国籍別分析、企業別分析、技術要素別分析など）
3. 特許を視野に入れた研究開発戦略（AI 創薬を中心に）
 - 3.1 研究開発における特許戦略の重要性
 - 3.2 特許出願のタイミング（ビッグデータ創薬、ゲノム・オミックス、ドラッグ・リポジショニング、マテリアル・インフォマティクスなど）
 - 3.3 AI 創薬の特許出願における留意点
 - 3.4 AI 創薬の先行技術調査の留意点
4. どのような特許を取得すべきか（AI 創薬を中心に）
 - 4.1 特許を受けるための要件（機械学習、学習済みモデル、データ構造）
 - 4.2 どの程度の進歩性が要求されるのか（有利な効果、先行技術との比較データなど）
 - 4.3 どの程度の開示要件が要求されるのか（実験データ、薬理データなど）
 - 4.4 特許審査への対応について
（拒絶理由への対応方法、面接審査の利用方法、拒絶査定を回避するコツなど）
5. 事例研究（AI 創薬に関する最近の特許登録事例）
 - 5.1 ビッグデータ創薬
（創薬ターゲットの探索、副作用情報の分析、ハイスループットスクリーニング）
 - 5.2 ゲノム・オミックス
（バイオマーカーの探索、疾患原因の解明、遺伝子発現プロファイル、DDS 研究）
 - 5.3 ドラッグ・リポジショニング
（化合物の物性予測、薬理効果の予測、新たな薬効の探索、蛋白質相互作用の解明）
 - 5.4 マテリアル・インフォマティクス
（新規材料の探索、構造・物性予測モデル、分子シミュレーションなど）
 - 5.5 AI 創薬に関する特許登録事例の傾向
 - 5.6 事例を踏まえた最適な明細書・クレームの提案